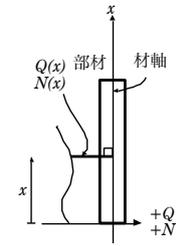
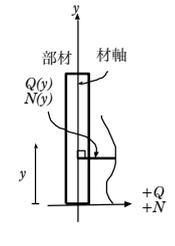
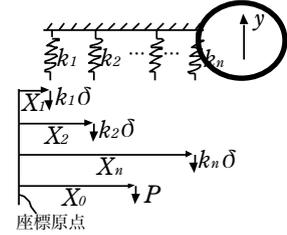
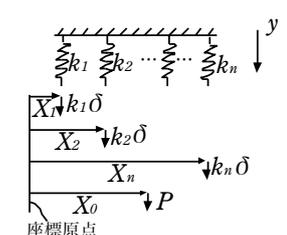
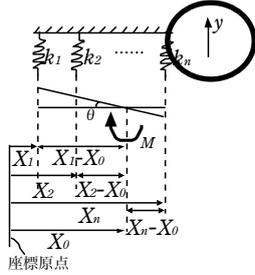
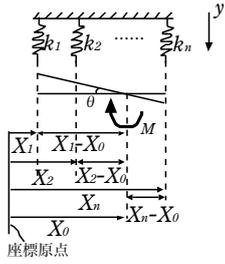
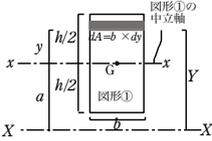
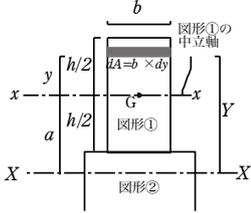
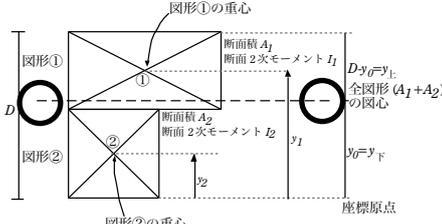
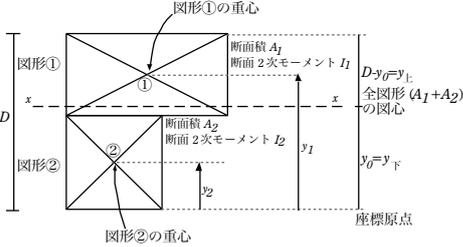
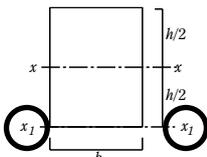
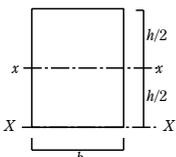


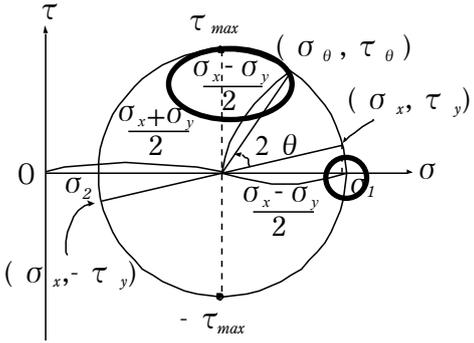
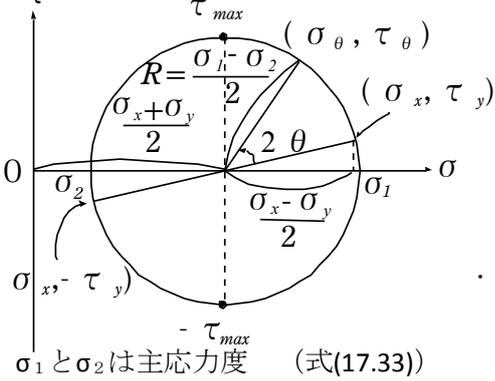
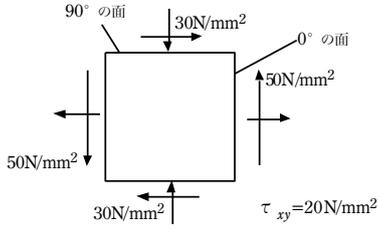
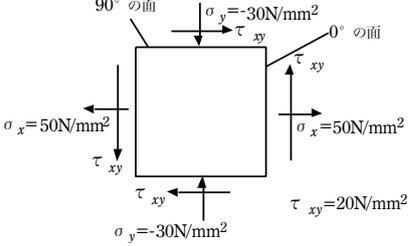
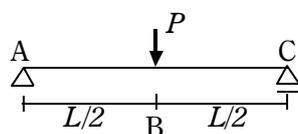
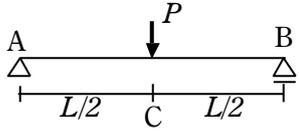
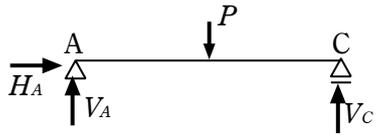
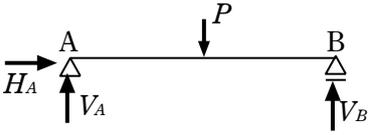
基礎からわかる静定構造力学 正誤表

2015年9月版

修正箇所	誤	正
14ページ 2行目	図1.19(a)のような力と <u>釣り合う</u> 合力と、	図1.19(a)のような力の <u>合力</u> と、
14ページ 式(1.9-b)	$\sum P_x = -10 + 5 - 15 = -20 \text{ kN}$	$\sum P_y = -10 + 5 - 15 = -20 \text{ kN}$
35ページ 図4.3	せん断力(Q) 軸材に <u>直角にずれないように</u> 作用する力 曲げモーメント(M) 回転 <u>しないように</u> 作用する力	せん断力(Q) 軸材に <u>直角に作用する</u> 作用する力 曲げモーメント(M) 回転 <u>方向に</u> 作用する力
45ページ 図5.1(b)		
53ページ 15行目 22行目	⑤せん断力図を図示する。 ⑥モーメント図を図示する。	④せん断力図を図示する。 ⑤モーメント図を図示する。
70ページ20行目式(5.56-b)	点B	点C
103ページ 1～3行目	[解b]点Aより右側へ解いていく方法 今までと同じく点Aより右側へ解いて応力図を作成する。	[解b] <u>等変分布荷重を集中荷重に置き換えて</u> 、点Aより右側へ解いていく方法 <u>等変分布荷重を集中荷重に置き換えて</u> 、今までと同じく点Aより右側へ解いて応力図を作成する
134ページ 12行目	B-A、点D-C、点D-E間の部材に作用する	B-A、点D-C、点D-E間、 <u>点C-F間</u> の部材に作用する
139ページ 1行目	$N_{CA} \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} - N_{CB} - N_{ED} = 0$	$-N_{CA} \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} - N_{CB} - N_{ED} - P = 0$
157ページ 図15.6		

修正箇所	誤	正
158ページ 図15.7		
163ページ 15行目 式(16.11-a')	$S_x = \int_0^{20} 80 \cdot y dy + \int_{20}^{100} 20 \cdot y dy$	$S_x = \int_0^{100} 20 \cdot y dy + \int_0^{20} 60 \cdot y dy$
168ページ 4~7行目 式(16.36)	$\begin{aligned} I_{x1} &= \int_A Y^2 dA = \int_A (y+a)^2 dA \\ &= \int_A (y^2 + 2ya + a^2) dA \\ &= \int_A y^2 dA + 2a \int_A y dA + a^2 \int_A dA \\ &= I_x + a^2 A \end{aligned}$	$\begin{aligned} I_{x(1)} &= \int_A Y^2 dA = \int_A (y+a)^2 dA \\ &= \int_A (y^2 + 2ya + a^2) dA \\ &= \int_A y^2 dA + 2a \int_A y dA + a^2 \int_A dA \\ &= I_{x(1)} + a^2 A \end{aligned}$
168ページ 図16.16		
168ページ 図16.17		
170ページ 図16.19		
170ページ 2行目 5行目	図16.19に示す長方形の x_1-x_1 軸に関する 図心軸に関する	図16.19に示す長方形の $X-X$ 軸に関する 図心軸 $x-x$ に関する断面2次モーメント を I_x とすると
170ページ 式(16.47-a)	$\sigma_c = \frac{M}{I} y_c$	$\sigma_c = \frac{M}{Z_{上}} = \frac{M}{\left(\frac{I}{y_c}\right)}$
170ページ 式(16.47-b)	$\sigma_t = \frac{M}{I} y_t$	$\sigma_t = \frac{M}{Z_{下}} = \frac{M}{\left(\frac{I}{y_t}\right)}$
175ページ 式(16.55)	$\sigma_{(x,y)} = \sigma_{(y)} + \sigma_{(x)} + \sigma_N = \frac{M_x}{I_x} + \frac{M_y}{I_y} + \frac{N}{A}$	$\sigma_{(x,y)} = \sigma_{(y)} + \sigma_{(x)} + \sigma_N = \frac{M_x}{I_x} + \frac{M_y}{I_y} + \frac{N}{A}$

修正箇所	誤	正
175ページ 図16.27(a)		
176ページ 図16.30(a)と(b)の断面図		
176ページ 図16.30(d) 引っ張りは「+」 圧縮は「-」で統一		
176ページ 図16.30(f) 引っ張りは「+」 圧縮は「-」で統一		
176ページ18行目～20行目の文を加筆して式(16.58-b)の後に移動	そして、求めるべき応力分布は図16.30(d)のように応力度分布図を足し合わせによって求める。	そして、求めるべき応力分布は図16.30(d)のように、 <u>引張・圧縮の符号を考慮して、それぞれ応力度分布図を足し合わせによって求める。</u>
176ページ26行目～28行目の文を加筆して式(16.59-b)の後に移動	求めるべき応力分布は図16.30(f)のようにそれぞれ応力度分布図を足し合わせにより求める。	求めるべき応力分布は図16.30(f)のように、 <u>引張・圧縮の符号を考慮して、それぞれ応力度分布図を足し合わせにより求める。</u>
177ページ 図16.31 (a) 引っ張りは「+」 圧縮は「-」で統一		
177ページ 図16.31 (b) 引っ張りは「+」 圧縮は「-」で統一		
183ページ 図17.4		
189ページ 8行目	を中心とした半径 $\sqrt{\left(\frac{\sigma_x - \sigma_y}{2}\right)^2 + \tau_{xy}^2}$ とする円	を中心とした半径 $R = \sqrt{\left(\frac{\sigma_x - \sigma_y}{2}\right)^2 + \tau_{xy}^2}$ とする円

修正箇所	誤	正
189ページ 図17.14		
189ページコラム内の文	定義される。なお、せん断力は、	定義される。なお、せん断応力度は、
190ページ 3行目	る。 σ_x 、 σ_y の2つの力が働いたときには、モール	る。 σ_x 、 σ_y 、 τ_{xy} の力が働いたときには、 <u>図17.14</u> のモール
191ページ 図17.18(a)		
210ページ 図19.8(a)		
210ページ 図19.8(b)		
211ページ 17～20行目	図19.8(f)に示すように、 $x=L/2$ (B点)では部材がつながっているため、式(19.19-b)、式(19.20-b)のB点でのたわみ角、及び式(19.19-c)、式(19.20-c)のB点でのたわみ量がそれぞれ一致する。	図19.8(f)に示すように、 $x=L/2$ (C点)では部材がつながっているため、式(19.19-b)、式(19.20-b)のC点でのたわみ角、及び式(19.19-c)、式(19.20-c)のC点でのたわみ量がそれぞれ一致する。